



学校だより

令和4年9月吉日
上越市立有田小学校
校長 野田 晃

あたたかい言葉

朝、「おはようございます」と、子どもたちの大きな声が響くようになりました。私の前まで来て、「校長先生、おはようございます」と挨拶する子どもも増えてきました。幸せな気持ちになります。挨拶は基本的な礼儀であり躰として身に着けさせるべきである、と言う人がいます。もちろん、形として教えることも大切だと思いますが、本来、挨拶することは気持ちが良いことです。元気に声を出すことは爽快ですし、挨拶した相手が笑顔になることも、笑顔で挨拶が返ってくることも楽しいものです。人と人との心をつなぎ、お互いを幸せな気持ちにさせることができる「あたたかい言葉」であるとも言えます。爽やかな挨拶を通して、友達に、登校班のみんなに、学級の仲間に、家族に、地域の方々に、幸せを配ることのできる人になってほしいと思います。必ず、その子の幸せにつながるからです。

もうずいぶん昔に亡くなっていますが、私の祖母は、いつも私を褒めてくれました。私は小学生の頃、勉強も運動も苦手でした。だから、よい成績をとったり賞状をもらったりすることはありませんでした。でも、私の祖母は、ちょっとしたことで褒めてくれました。例えば、「そんなことを知っているの、すごいね」「歌がうまいんだね、歌手になれるよ」「たくさんご飯を食べるね、おばあちゃんうれしいよ」などです。どれも、それほど特別なことではありません。それなのに、祖母は満面の笑みで褒めてくれました。とてもうれしそうでした。そんな祖母に対して、「誰でも知っているよ。おばあちゃん知らないの?」「もっと歌がうまい人はいっぱいいるよ」「どんどん太って大変なんだぞ」など、生意気なことを言っていました。今となっては恥ずかしい限りです。

祖母は私の才能を伸ばすとか、褒めて私を育てようとか、そんなことは考えていなかったと思います。また、他の子どもと比べて良いとか悪いとかも思っていなかったと思います。孫と一緒にいて少しずつ成長している姿を見ることが楽しかったのではないのでしょうか。そんな祖母からの「あたたかい言葉」の数々は、私の心に深く浸透していったものだと思います。

私の心に確かに残っているのは、その一つ一つの言葉ではなく、「私をまるごと祖母が愛してくれていたという実感」です。たとえ、今、勉強ができなくても、運動ができなくても、学校で目立ったことがなくても、友達とうまくかかわれなくても、祖母は愛してくれました。私の存在そのものを認めてくれていたのです。あの頃は小さくて分かりませんでしたが、今となってみると、何かに挑戦するとき、様々な困難を乗り越えるとき、自分を信じて行動するときの大きな心の支えになっていたと思います。感謝しかありません。

「あたたかい言葉」は、人に元気と勇気を与えます。

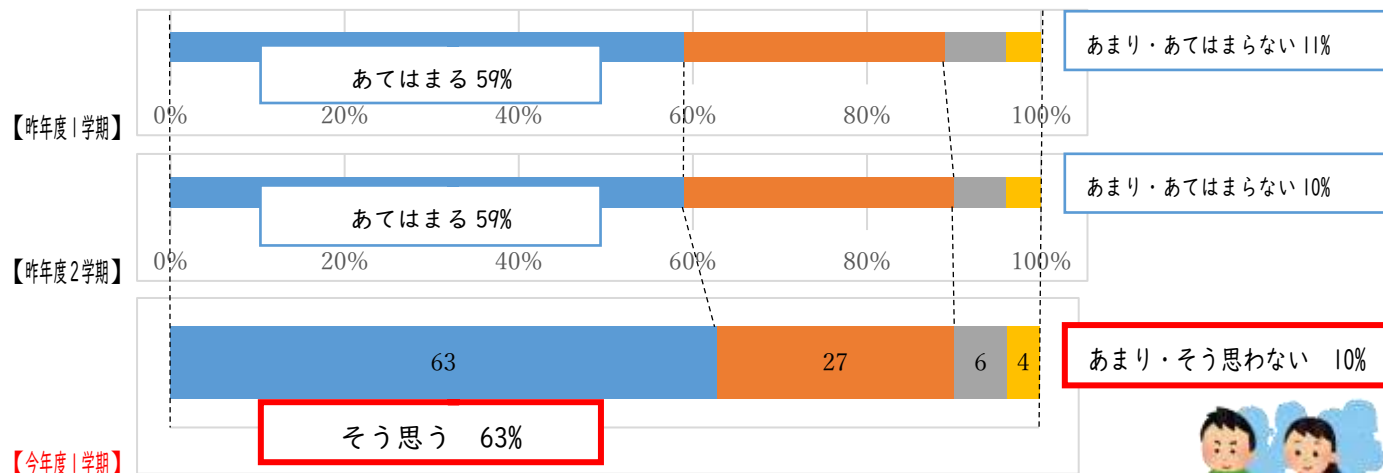
学級が、学校が、家庭が、地域が、「あたたかい言葉」であふれることを願っています。存在そのものを認められ、愛されているという実感が、安心して自分を表現できることにつながり、様々なことにチャレンジしていくための原動力となるのですから。

【学校評価アンケートの結果より その1】

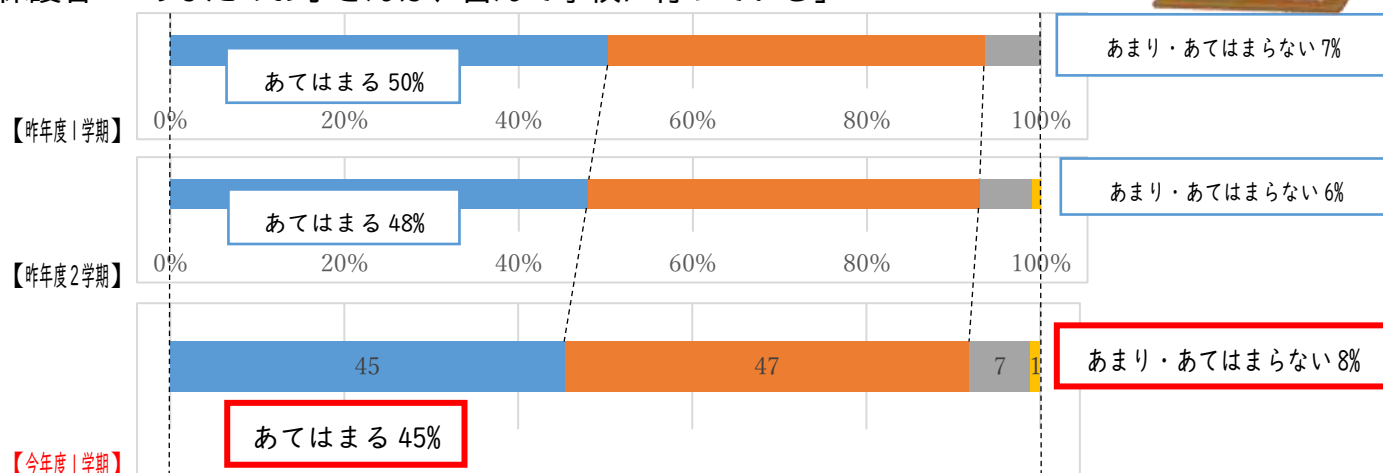
当校の教育活動に関するアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。調査結果をもとに、教職員で子どもの成長について振り返り、学校としての受けとめや今後の方策等についてお示しします。

今号では、グランドデザインにお示ししている教育目標に対する評価を中心にお伝えします。

児童：「学校に行くことは楽しい」…90%



保護者：「あなたのお子さんは、喜んで学校に行っている」



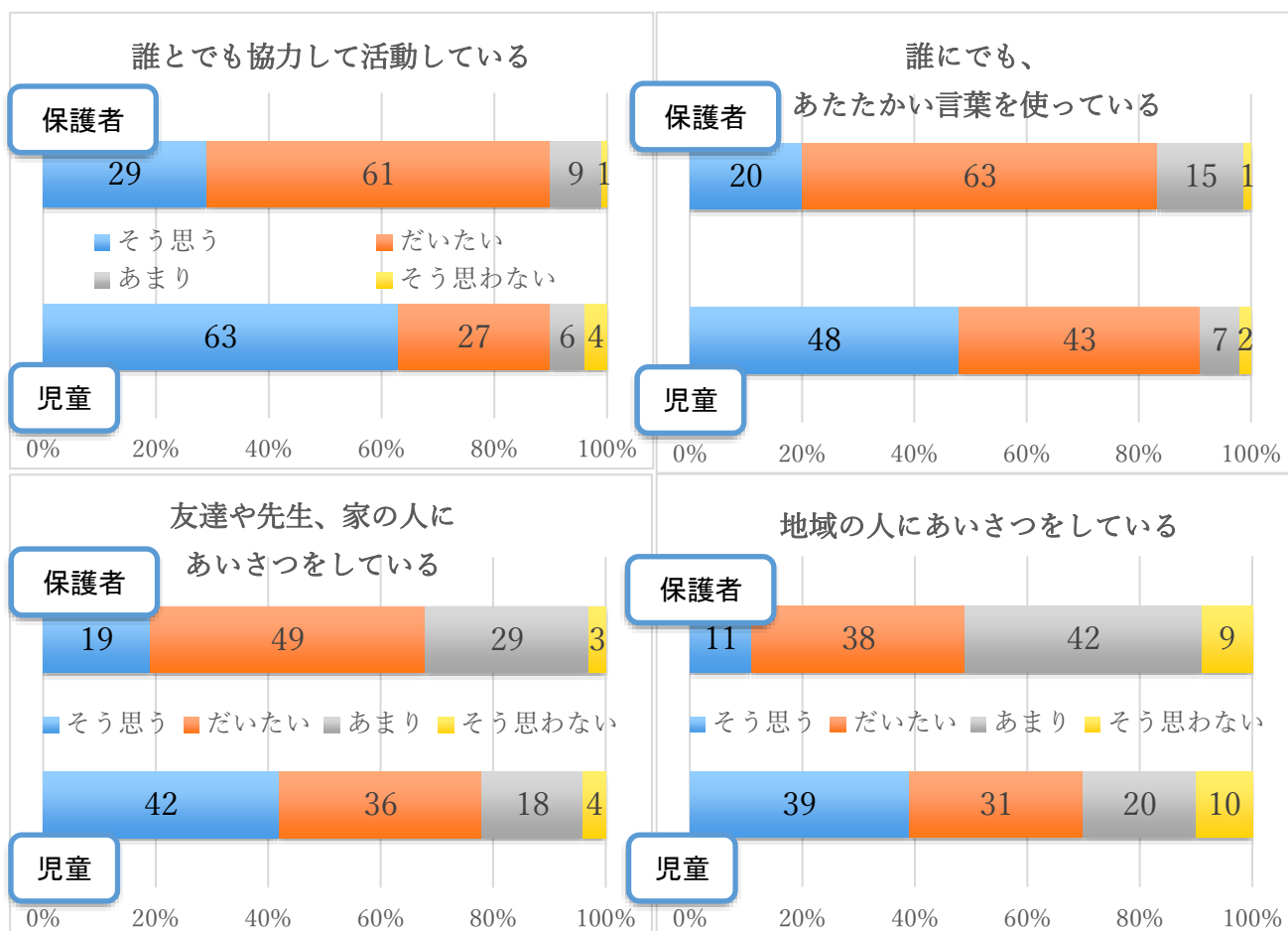
子どもたちからも、保護者の皆様方からも約9割の肯定的評価をいただきました。子どもたちの強肯定(「だいたい」を除き、明確に「そう思う」との回答率)も4%(約25人)向上しており、嬉しく思います。しかし、子どもたちの1割(約62人)が否定的評価であることを忘れず、この数値が少なくなるよう努めていかななくてはなりません。

また、保護者の皆様の肯定的評価がじりじりと下がってきています。強肯定は5割以下(45%)、一昨年度と比較すると1割ダウン(約62人)です。この設問は、コロナ禍以前(平成31年度)も子どもたち・保護者の皆様から、ともに9割の肯定的評価をいただいていた。しかも、強肯定は児童の8割(78%)、保護者の6割(61%)でした。コロナ禍による制約は依然として多くありますが、一人の子も余すことなく「楽しい」と言える学校を目指します。

さて、昨年度も話題になったメディアに関する質問(インターネット・動画・ゲーム・SNSなどは、家庭で決めたルールやマナーを守っている。)の肯定的回答は児童が82%(強54%)、保護者は65%(強20%)と、昨年度からの変化はほぼありませんでした。保護者の皆様には「お子さんのメディア接触時間を制限したり、子どもとの触れ合いの時間を確保したりしている」もお聞きしたところ、こちらは86%(強22%)でした。「我が家でもアウトメディアには取り組んでいるけれども、いま一つ手応えがない…」という心の声聞こえるようです。また、自分のスマホ・タブレットを持っている児童は42%、インターネットにつながるゲーム機等を持っている児童は36%という結果になっています。

「メディア」の魅力も抗い難いものですが、「豊かな人間性・社会性の育成」を重要課題に据えて、心・学び・健康づくりの3本柱で教育活動に真摯に取り組んで参ります。

「様々な人とかわり相手を思いやる子」

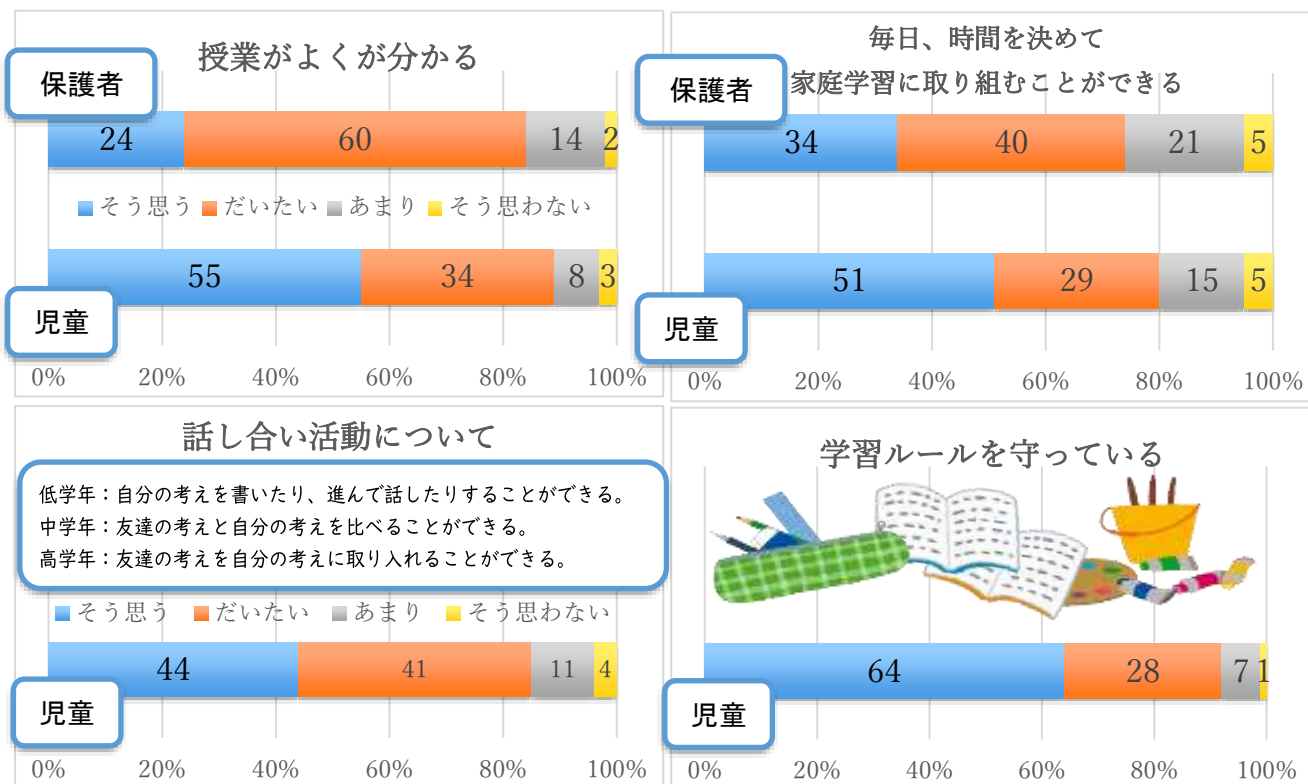


「誰とでも協力して活動している」や「誰にでも、あたたかい言葉をつかっている」の項目は、児童の肯定的評価が90%を超えています。しかし、「そう思う」とはっきりと答えている児童の割合は、昨年度と比べ10%以上下がっています。「友達同士や先生、家の人、地域の人にあいさつをしている」の項目でも、昨年度に比べて児童の肯定的な評価が10%以上下がっています。



原因として新型コロナウイルス感染症予防によるグループ活動の制限により、「しっかりとやっている」と自信をもって言える児童が少なくなったのではないかと考えます。今後は感染症対策を実施しながら、縦割り班活動、教室内におけるグループ活動等、コロナ禍の中でできる協力し合える活動を実施していきます。また、9月に「ほかほか言葉」を使い、「いつでも、どこでも、だれにでも、自分から、聞こえる声であいさつをしよう」と上学年・下学年集会を行いました。私たち教職員も垂範率先しながらあいさつをし、「進んであいさつをする人」を増やしていきたいと考えます。ご家庭においても、お子さんと一緒にあいさつを行っていただき、できたときに「よくできたね」と声をかけていただければ幸いです。

「学び合い、考えを深める子」

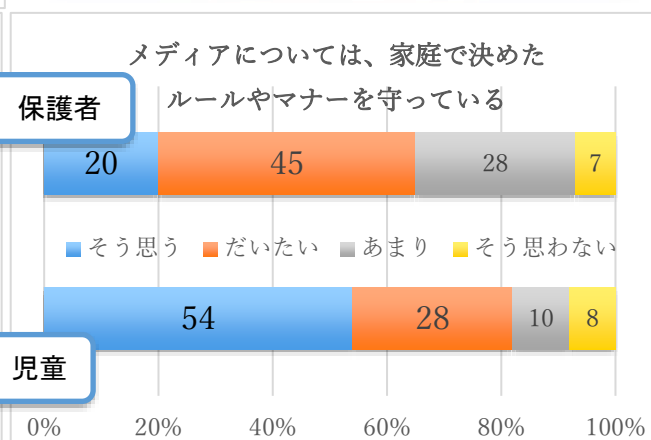
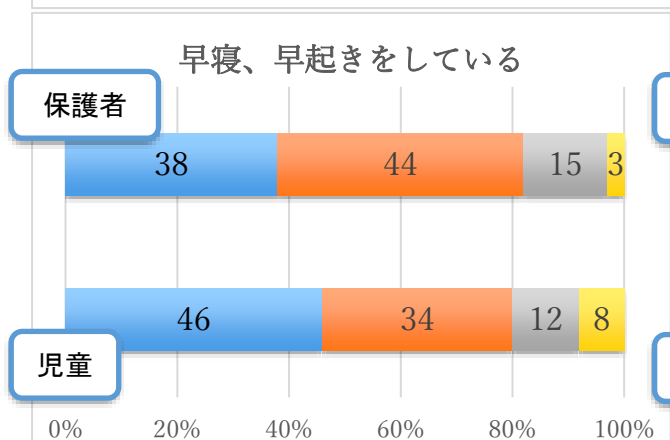
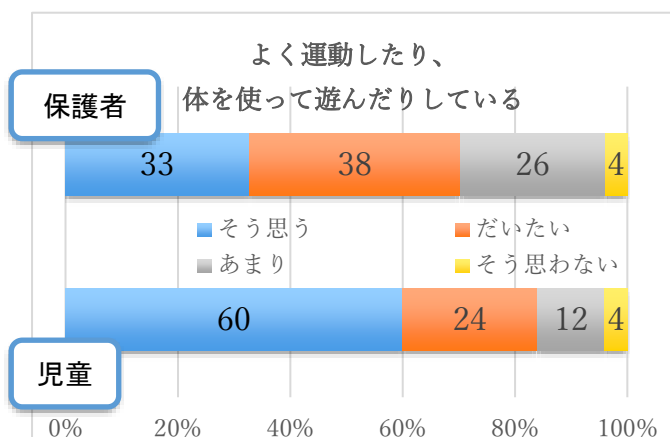


「授業がよく分かる」の項目では、児童の肯定評価が88.5%でした。ICT機器（タブレット端末など）を活用して、教科書、活動の写真、動画、児童のノートやシートを提示する視覚的な支援により、児童の理解を促すことができました。学習習慣「学習のきまり5か条」定着の指導を継続すると共に、児童が自ら課題に取り組み、学び続ける授業づくりを進めていきます。

「話し合い活動」の項目では、児童の肯定評価が85.4%でした。目的に応じてペアやグループの形態で話し合いを行ったことで、自分の考えを伝える力や自分と友達の考えと比べて考える力の向上を図ってきました。これからも、課題提示や教材、協働的な活動や体験的な活動を工夫することで、児童が自分の考えを適切に伝えたり、友達との学び合いの中で自分の考えを深めたりできるようにしていきます。

「毎日、家庭学習に取り組んでいる」の項目は、児童の肯定評価が79.6%、保護者の肯定評価が74.6%でした。1・2年生では音読カード、3～6年生では家庭学習カードを活用して、家庭学習の記録を蓄積して振り返ることで、児童が達成感をもったり自分の課題に気付いたりできるようにしてきました。ただ、児童・保護者アンケートの数値から、家庭学習の時間や内容面の課題も明らかになりました。家庭学習の習慣化をさらに図るために、カードの使用の継続と共に学習内容の充実のための手立てを講じていきます。

「進んで運動する子」「生活習慣を身に付けている子」



「よく運動したり、体を使って遊んだりしている」の項目は、児童の肯定的評価が83.8%でした。休み時間には、グラウンドや体育館などで活発に活動する子どもがたくさんいます。運動会「GO!GO!フェスティバル in ありた」や体力テストに意欲的に取り組む児童も多く見られました。

「早寝早起きの習慣化」と「アウトメディアの取組」の項目では、児童の肯定的評価が、それぞれ80.1%、82.1%でした。早寝早起きは習慣化が図られており、「アウトメディアの取組」も目標値の80%以上を達成しています。親子でメディアのルールを決めることが、アウトメディアに取り組むきっかけになっていると考えています。なお、保護者アンケートの肯定的評価は64.7%であり、児童の評価と差があります。お家の方からの強い働き掛けがないと取り組めない児童が多いことが読み取れます。児童の意識を高めるために、毎月の健康の日には、メディアや健康三原則に関する指導を学級で実施し、その様子や内容を保健だよりでご家庭に伝えて参ります。また、2学期も1学期同様に、「健康の日カード」を用いて、更なる定着を図っていきます。どちらの項目も、ご家庭の協力が不可欠です。引き続き、ご協力をお願いします。



◆10月の予定



- 9月30日(金) 校内マラソン大会
10月5日(水) 市親善陸上大会(選手のみ参加となり、保護者による参観はできません。)
10日(月・祝) **スポーツの日**
12日(水) 委員会活動
18日(火) 就学時健診(*給食なし 午前11:40下校)
19日(水) クラブ活動
11月3日(木・祝) **音楽発表会**(今年度から開催方法を改め、音楽発表に特化したします。)
4日(金) **11/3の振替休業日**

◆安心して休める学校に、安心して登校できる学校に・・・

皆様もご存知のように、市内における新型コロナウイルス新規感染者数は高止まりの状況です。当校でも断続的に陽性者が発生している状況ですが、子どもたちが安心して過ごせるよう、文科省策定のマニュアルに基づいた感染症対策を実施し、最大限の努力を講じているところです。新型コロナウイルス感染症がより身近となったことで、欠席者(出席停止扱い)の子どもも多く、期間が長くなることもあります。「周りから何か言われたらどうしよう…」と不安になり、再登校への心配を募らせてしまうこともあるかと思えます。

そこで、学校では、新型コロナウイルス感染症を起因とする差別や偏見が起こらないよう、随時、子どもたちへ下記のように指導しています。

- ① 自分の身の回りで感染したり、濃厚接触者になったりした人があったとしても、差別をしたり、噂話をしたりはしないこと。
- ② 学校を休んだ友達に、その理由を「きかない(たずねない)」こと。また、自分から休んだ理由も「いわない」(仲間から学校を休んだ理由をきかれても「こたえなくてよい」)こと。
- ③ 新型コロナウイルス感染症も含め、病気は治れば伝染しません。長くお休みしていた友達が戻ってきたら、安心して一緒に過ごしてよいこと。
- ④ 心の中で、お休みしている友達を心配し、みんなを守るために頑張っている人たちに感謝すること。

友達と再会したときに「また一緒に勉強したり遊んだりしようね」と優しい言葉を掛けることができる関係づくりを支援していきます。

◆「学校の働き方改革」に伴って

市からの「学校の『働き方改革』推進パンフレット」を7月に配布・回覧させていただきました。当校も職員の時間外勤務が長くなっています。教職員が子どもたちと向き合う時間を確保し、健康で生き生きと働くことで、充実した教育活動を展開したいと考えています。つきましては、以下の対応にご理解とご協力をお願いします。

○ 電話(531-3055)でのご対応… 平日の7時30分～18時30分

* 時間外の緊急時(交通事故や入院を要するような急病等)は、有田小携帯(080-4949-2091)へ